

平成26年度 西都銀上学園 学校関係者評価

【自己評価:4段階評価】 4(十分に満足できる) 3(ほぼ満足できる) 2(やや物足りない) 1(改善を要する)

評価項目	評価の観点	方策・指導の手立て	反省・対策		総合評価	学校関係者評価委員のコメント		
			自己評価 指標別	総合				
1 基礎・基本の確実な定着と学力の向上	個に応じた指導	児童生徒の状況を把握し、一人一人に応じた学習指導の工夫改善を図る。	・個に応じた指導の工夫・改善 ・「めあて」「目標」と「まとめ」のある学習指導過程 ・シロミックスタイム等の個に応じた指導の充実	・シロミックスタイムも2年目となり、昨年度以上に充実してきた。効果も出ているので、継続していきたい。 ・個に応じた指導を充実させ、一人一人の学力向上を図っていく。 ・小4～6年生は、次年度、クラブ活動をやめて個人の探究活動を行い、調査発表する活動に取り組ませる。	3.4	3.1	3.0	・児童生徒の学力が向上してきている姿がわかった。 ・シロミックスタイムは、子どもたちから「よくわかるようになってうれしい。」という話を聞いた。学力向上に大いに役立っているようなので継続できれば発展させていってほしい。 ・きめ細かな指導が行き届いているのは、西都銀上学園のよさであり、それを生かす指導がなされている。
	授業力の向上	中学校教諭による乗り入れ授業を行い、学力向上を目指すとともに、小中相互の授業参観を積極的に実施し、授業の工夫・改善に努める。	・乗り入れ授業による個別指導の充実 ・授業研究会による研修の充実	・全職員が研究授業を行い、事後研究会で課題を明らかにして次の授業につなげることで、授業力向上に努めることができた。 ・乗り入れ授業については、担任が受け持ち児童の実態がわからない教科があるので、年度途中で教科担当を交代するなど柔軟にしていなければならない。 ・シロミックスタイムと家庭学習を充実させ、個に応じた指導課題を与えることができた。 ・家庭との連携がうまくできていない部分もあるので、「家庭学習の手引き」を充実させていく必要がある。	3.3			
	家庭学習の充実	家庭との連携により、家庭学習の習慣化に努め、基礎学力の定着を図る。	・基礎学力の定着を図る家庭学習の指導 ・個に応じた家庭学習の指導	・シロミックスタイムと家庭学習を充実させ、個に応じた指導課題を与えることができた。 ・家庭との連携がうまくできていない部分もあるので、「家庭学習の手引き」を充実させていく必要がある。	3.0			
	学力向上	NRT、CRT、実力テスト等の諸検査の分析を生かし学力向上のための手立ての充実を図る。	・諸学力検査の結果による児童生徒の実態	・NRTの分析を行ったが、児童生徒一人一人の変容を見ることができていないので、継続して分析を行っていく。	3.0			
	学習意欲の向上	児童生徒の向上心を高め学習に対する意欲を喚起する。	・学習意欲の喚起 ・目標をもち向上心をもって学習に取り組む態度の育成	・キャリア教育の視点を生かして年間指導計画を見直していく必要がある。 ・スクールスタンダードを継続させるとともに、見直しを随時行いよりよいものに改善していく。	2.7			
2 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	基本的な生活習慣の指導	あいさつや言葉遣いの指導を中心に、基本的な生活習慣の確立に努める。	・あたりまえのこと三カ条を中心とした指導 ・早寝・早起き・朝ご飯等の基本的な生活習慣の指導	・ソーシャルスキルについての指導が不十分な面が見られる。年度当初に挨拶・礼儀等の指導を行う。	3.1	3.1	3.3	・あいさつがとてもよい。また、子どもたちが非常に明るい。ぜひこれを続けていってほしい。 ・学校では地域の自然を生かした活動(山菜採り、魚釣りなど)を積極的に行っているが、学校でできることには限りがある。せっかくこの土地に山村留学している子どもたちにもっとそのような経験をさせたい。里親の高齢化など課題もあるが、これは、地域の問題であり、今後どのように取り組んでいけるか、学校評議員から里親などに話していかねなければならない。
	体験学習	地域の伝統文化や自然に密着した体験的学習を推進し、豊かな心の育成を図る。	・伝統文化を活かした体験学習の充実 ・豊かな自然を活かした校外活動の実施	・伝統文化の意義なりを事前に指導する。	3.6			
	道徳教育 人権教育	道徳の時間や人権学習の内容充実を図り、思いやりの心や温かい人間関係の醸成を図る。	・道徳の年間計画の見直し ・道徳の授業の工夫改善と体験活動の充実 ・人権指導の全体計画の作成	・道徳の年間計画を整備し、どの価値観についても計画的に取り扱い授業が行えるようにすることで、道徳的な意識を高める。 ・週案に道徳の授業の項目を掲載することで常時指導と実態に応じた指導を行うよう心掛ける。	3.0			
	思いやりの心		・児童生徒の実態	・実態に応じ縦割りやグループ清掃を取り入れる中で他に対する思いやりの心を育む機会とする。	3.0			
	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の定着を図る	・児童生徒の実態	・毎日の意識付けを継続して行う。各教科の中で生活習慣の必要性を学ばせ、家庭への啓発を行っていく。	2.9			
3 健康・安全教育の推進と体力の向上	食育の充実	食に関する指導を充実させ「みやぎき弁当の日」の取組を行う	・食育の充実	・計画的に充実した内容が実践できているので今後も継続していく。	3.3	2.9	3.1	・食育などに関しては、あまり情報を得る機会がないので評価もしづらい。学校での様子を保健便りや食育便りで伝えていってほしい。 ・学校に遊具がないのでは体力向上の面で支障がある。ぜひ、市には早急に遊具を設置してほしい。
	健康安全教育	生命尊重を基盤とした健康・安全教育を推進する	・健康教育・安全教育の推進	・安全教育の充実は図れたが、休日の過ごし方について指導が必要である。	3.1			
	体力向上		・体力テストの結果を生かした個に応じた指導の充実	・体力テストの結果を反映させた授業の工夫に取り組む。	2.8			
	部活動・行事等	体育指導の充実と運動の日常化を通して、児童生徒一人一人の体力向上に努める。	・部活動、行事等での根気強く取り組む態度の育成 ・児童生徒の実態の把握	・部活動のみならず、あらゆる機会を通じて体力、根気強さを向上させるために指導する側も根気強く継続して指導いく。	2.8			
	体力に関する実態		・児童生徒の実態の把握		2.7			
根気強さの実態		・児童生徒の実態の把握		2.9				
4 小中一貫教育の推進と家庭・地域社会との連携による教育の充実	小中一貫教育	学習指導面や生徒指導面における小中連携の在り方等について共通理解、共同実践しながら、小中相互の連携や協力体制の確立を図る。	・学習指導面での小中連携の充実 ・生徒指導面での小中連携の充実	・3年目となり行事等もある程度形になってきたが、行事が「例年通り」で済まされることがないよう、ねらいや児童生徒の実態を考慮して見直していく必要がある。	3.4	3.2	3.6	・学校のホームページの情報発信は素晴らしいので今後も継続をお願いしたい。西都銀上学園のよさを広く発信して山村留学を継続させ、学校を存続させることができるようにしたい。
	情報発信(説明責任)	学校の教育方針や教育的課題を積極的に説明するとともに、学校便りやホームページ等を通した情報提供に努める。	・教育方針や課題についての積極的な説明 ・学校便りやHPによる情報提供の充実	・今後も、参観日等での直接対面する機会を第一に、学校便りやホームページ等などの間接的な機会を補完的に充実させ、情報提供に努める。 ・学校ホームページは、年間13万件超のアクセスを数え情報発信に効果を発揮できている。	3.0			
	関係機関との連携・協力	山村留学実行委員会、保護者(実親、里親)との連携・協力体制の確立を図る。	・関係機関との連携・協力体制の確立	・今後も連絡を密にし、充実した協力体制を維持継続していく。	3.1			
				3.3				

平成26年度 西都銀上学園 自己評価書

評価:4段階評価】 4(十分に満足できる) 3(ほぼ満足できる) 2(やや物足りない) 1(改善を要する)

評価項目		評価の観点	方策・指導の手立て	自己評価		反省・対策
				指標別	総合	
1 基礎・基本の確実な定着と学力の向上	個に応じた指導	児童生徒の状況を把握し、一人一人に応じた学習指導の工夫改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導の工夫・改善 「めあて」「目標」と「まとめ」のある学習指導過程 シロミックスタイム等の個に応じた指導の充実 	3.4	3.1	<ul style="list-style-type: none"> シロミックスタイムも2年目となり、昨年度以上に充実してきた。効果も出ているので、継続していきたい。 個に応じた指導を充実させ、一人一人の学力向上を図っていく。 小4～6年生は、次年度、クラブ活動をやめて個人の探究活動を行い、調査発表する活動に取り組みさせる。
	授業力の向上	中学校教諭による乗り入れ授業を行い、学力向上を目指すとともに、小中相互の授業参観を積極的に実施し、授業の工夫・改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 乗り入れ授業による個別指導の充実 授業研究会による研修の充実 	3.3		<ul style="list-style-type: none"> 全職員が研究授業を行い、事後研究会で課題を明らかにして次の授業につなげることで、授業力向上に努めることができた。 乗り入れ授業については、担任が受け持ち児童の実態がわからない教科があるので、年度途中で教科担当を交代するなど柔軟にしていける必要がある。
	家庭学習の充実	家庭との連携により、家庭学習の習慣化に努め、基礎学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図る家庭学習の指導 個に応じた家庭学習の指導 	3.0		<ul style="list-style-type: none"> シロミックスタイムと家庭学習を充実させ、個に応じた指導課題を与えることができた。 家庭との連携がうまくできていない部分もあるので、「家庭学習の手引き」を充実させていける必要がある。
	学力向上	NRT、CRT、実力テスト等の諸検査の分析を生かし学力向上のための手立ての充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 諸学力検査の結果による児童生徒の実態 	3.0		<ul style="list-style-type: none"> NRTの分析を行ったが、児童生徒一人一人の変容を見ることができていないので、継続して分析を行っていく。
	学習意欲の向上	児童生徒の向上心を高め学習に対する意欲を喚起する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の喚起 目標をもち向上心をもって学習に取り組む態度の育成 	2.7		<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点を生かして年間指導計画を見直していく必要がある。 スクールスタンダードを継続させるとともに、見直しを随時行いよりよいものに改善していく。
2 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	基本的な生活習慣の指導	あいさつや言葉遣いの指導を中心に、基本的な生活習慣の確立に努める。	<ul style="list-style-type: none"> あたりまえのこと三カ条を中心とした指導 早寝・早起き・朝ご飯等の基本的な生活習慣の指導 	3.1	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルスキルが身に付いていない児童生徒が多い。年度当初に挨拶・礼儀等の指導を行う。
	体験学習	地域の伝統文化や自然に密着した体験的学習を推進し、豊かな心の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化を活かした体験学習の充実 豊かな自然を活かした校外活動の実施 	3.6		<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化の意義などを事前に指導する。
	道徳教育	道徳の時間や人権学習の内容充実を図り、思いやりの心や温かい人間関係の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の年間計画の見直し 道徳の授業の工夫改善と体験活動の充実 	3.0		<ul style="list-style-type: none"> 道徳の年間計画を整備し、どの価値観についても計画的に取り扱い授業が行えるようにすることで、道徳的な意識を高める。 週案に道徳の授業の項目を掲載することで常時指導と実態に応じた指導を行うよう心掛ける。
	人権教育		<ul style="list-style-type: none"> 人権指導の全体計画の作成 	3.0		<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じ縦割りやグループ清掃を取り入れる中で他に対する思いやりの心を育む機会とする。
	思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態 	3.0		
基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態 	2.9			
3 健康・安全教育の推進と体力の向上	食育の充実	食に関する指導を充実させ「みやぎき弁当の日」の取組を行う	<ul style="list-style-type: none"> 食育の充実 	3.3	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に充実した内容が実践できているので今後も継続していく。
	健康安全教育	生命尊重を基盤とした健康・安全教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育・安全教育の推進 	3.1		<ul style="list-style-type: none"> 安全教育の充実は図れたが、休日の過ごし方について指導が必要である。
	体力向上	体育指導の充実と運動の日常化を通して、児童生徒一人一人の体力向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を生かした個に応じた指導の充実 	2.8		<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を反映させた授業の工夫に取り組む。
	部活動・行事等		<ul style="list-style-type: none"> 部活動、行事等での根気強く取り組む態度の育成 	2.8		<ul style="list-style-type: none"> 部活動のみならず、あらゆる機会を通じて体力、根気強さを向上させるために指導する側も根気強く継続して指導いく。
	体力に関する実態		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態の把握 	2.7		
	根気強さの実態		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態の把握 	2.9		
4 小中一貫教育の推進と家庭・地域社会との連携による教育の充実	小中一貫教育	学習指導面や生徒指導面における小中連携の在り方等について共通理解、共同実践しながら、小中相互の連携や協力体制の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導面での小中連携の充実 生徒指導面での小中連携の充実 	3.4	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 3年目となり行事等もある程度形になってきたが、行事が「例年通り」で済まされることがないよう、ねらいや児童生徒の実態を考慮して見直していく必要がある。
	情報発信(説明責任)	学校の教育方針や教育的課題を積極的に説明するとともに、学校便りやホームページ等を通じた情報提供に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 教育方針や課題についての積極的な説明 学校便りやHPによる情報提供の充実 	3.0		<ul style="list-style-type: none"> 今後も、参観日等での直接対面する機会を第一に、学校便りやホームページ等などの間接的な機会を補完的に充実させ、情報提供に努める。 学校ホームページは、年間13万件超のアクセスを数え情報発信に効果を発揮できている。
	関係機関との連携・協力	山村留学実行委員会、保護者(実親、里親)との連携・協力体制の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携・協力体制の確立 	3.3		<ul style="list-style-type: none"> 今後も連絡を密にし、充実した協力体制を維持継続していく。

平成26年度 西都銀上学園 自己評価書
 【自己評価:4段階評価】 4(十分に満足できる) 3(ほぼ満足できる) 2(やや物足りない) 1(改善を要する)

評価項目	評価の観点	方策・指導の手立て	自己評価		学校評価(集計)					
			指標別	総合	児童生徒	保護者	評議員	平均		
1 基礎・基本の確実な定着と学力の向上	個に応じた指導	児童生徒の状況を把握し、一人一人に応じた学習指導の工夫改善を図る。	・個に応じた指導の工夫・改善 ・「めあて」「目標」と「まとめ」のある学習指導過程 ・シロミックスタイム等の個に応じた指導の充実	3.4	3.1	3.2	3.0	2.9	3.0	・シロミックスタイムも2年目となり、 ・個に応じた指導を充実させ、 ・小4～6年生は、次年度、クラブせる。
	授業力の向上	中学校教諭による乗り入れ授業を行い、学力向上を目指すとともに、小中相互の授業参観を積極的に実施し、授業の工夫・改善に努める。	・乗り入れ授業による個別指導の充実 ・授業研究会による研修の充実	3.3						
	家庭学習の充実	家庭との連携により、家庭学習の習慣化に努め、基礎学力の定着を図る。	・基礎学力の定着を図る家庭学習の指導 ・個に応じた家庭学習の指導	3.0						
	学力向上	NRT、CRT、実力テスト等の諸検査の分析を生かし学力向上のための手立ての充実を図る。	・諸学力検査の結果による児童生徒の実態	3.0						
	学習意欲の向上	児童生徒の向上心を高め学習に対する意欲を喚起する。	・学習意欲の喚起 ・目標をもち向上心をもって学習に取り組む態度の育成	2.7						
2 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	基本的な生活習慣の指導	あいさつや言葉遣いの指導を中心に、基本的な生活習慣の確立に努める。	・あたりまえのこと三カ条を中心とした指導 ・早寝・早起き・朝ご飯等の基本的な生活習慣の指導	3.1	3.1	3.1	3.3	3.5	3.3	
	体験学習	地域の伝統文化や自然に密着した体験的学習を推進し、豊かな心の育成を図る。	・伝統文化を活かした体験学習の充実 ・豊かな自然を活かした校外活動の実施	3.6						
	道徳教育	道徳の時間や人権学習の内容充実を図り、思いやりの心や温かい人間関係の醸成を図る。	・道徳の年間計画の見直し ・道徳の授業の工夫改善と体験活動の充実	3.0						
	人権教育		・人権指導の全体計画の作成	3.0						
	思いやりの心		・児童生徒の実態	3.0						
基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の定着を図る	・児童生徒の実態	2.9							
3 健康・安全教育の推進と体力の向上	食育の充実	食に関する指導を充実させ「みやぎき弁当の日」の取組を行う	・食育の充実	3.3	2.9	3.6	3.1	2.5	3.1	
	健康安全教育	生命尊重を基盤とした健康・安全教育を推進する。	・健康教育・安全教育の推進	3.1						
	体力向上	体育指導の充実と運動の日常化を通して、児童生徒一人一人の体力向上に努める。	・体力テストの結果を生かした個に応じた指導の充実	2.8						
	部活動・行事等		・部活動、行事等での根気強く取り組む態度の育成	2.8						
	体力に関する実態		・児童生徒の実態の把握	2.7						
	根気強さの実態		・児童生徒の実態の把握	2.9						
4 小中一貫教育の推進と家庭・地域社会との連携による教育の充実	小中一貫教育	学習指導面や生徒指導面における小中連携の在り方等について共通理解、共同実践しながら、小中相互の連携や協力体制の確立を図る。	・学習指導面での小中連携の充実 ・生徒指導面での小中連携の充実	3.4	3.2	3.6	3.5	3.6		
	情報発信(説明責任)	学校の教育方針や教育的課題を積極的に説明するとともに、学校便りやホームページ等を通じた情報提供に努める。	・教育方針や課題についての積極的な説明	3.0						
			・学校便りやHPによる情報提供の充実	3.1						
関係機関との連携・協力	山村留学実行委員会、保護者(実親、里親)との連携・協力体制の確立を図る。	・関係機関との連携・協力体制の確立	3.3							

